

# 無線自動識別で物流深耕

## 光アルファクス

電子デバイスなどを取り扱う技術専門商社の光アルファクス（大阪市北区）は、ユニークなRFID（無線自動識別）で物流市場を深耕する。金属対応やキーホルダータイプなどの取り扱いを強化することで、顧客のさまざまなニーズに対応する方針。主力の金属対応タイプでは今後、検査装置備品やリース用途などに提案の幅を広げるほか、キーホルダータイプは鍵や小型のIT機器管理用として訴求していく。さらに、RFIDと温度管理をセットにしたソリューション展開にも力を注ぐなど、冷凍輸送用途での採用拡大を視野に入れる。

## 冷凍輸送用途も視野



金属対応のRFIDタグ（左）。キーホルダー型のRFIDアンテナ類を疑似して活用する

光アルファクスでは現在、物流を重点市場と位置付け、同市場向けにRFIDの販売を強化中だ。金属対応やキーホルダー型、プリンター発行タイプなどを取り揃えるなか、とくに金属対応品の打ち出しに力を注いでいる。

フェニックスソリューション（石川県金沢市）製の同RFIDタグは、金属の表面波を利用することで、これまで困難とされていた金属密集個所

## 金属対応 検査装置備品などに提案 キーホルダー型 鍵や小型IT機器管理用

への適用を可能にした。通信距離は5〜20m。また、筐体にはポリ塩化ビ

ニルやポリフェニレンサルファイド（PPS）などを使用することで、防水性や耐候性を実現した。

現状の金属対応RFIDタグについて光アルファクスは、「什器や金型な

ど固定資産管理用途として使われるケースが多く、右肩上がりで採用が拡大中という。今後の拡販戦略として、同用途への提案を継続強化しながら「適用範囲の幅を広げたい」と語る。例えば、金属パレットなどの物流管理や製造メーカー工場内の物品管理などへの採用を狙っている。さらに、自転車などのリース・レンタル業へも積極的にアピールする考えを示した。

このほか、フェニックスソリューション製としてはキーホルダー型のRFIDタグも訴求する。金属製のリングや鍵などを吊るす疑似アンテナとして機能する仕組みで、通信距離は約1〜5mとなる。鍵やスマートフォンのUSBメモリ、デジタルカメラなど、物流拠点などで使用する小型機器の管理用として展開していく。

さらに、米Amazon社のRFID温度ロガー

とハンディターミナルを組み合わせた温度管理ソリューションを用意し、コールドチェーン需要に対応する。急速冷凍したマグロの輸送や惣菜配達などで実証実験を進めるなか、車内冷蔵庫の温度変化や温度のばらつき調査などで良好な検証結果が得られたという。今後は実証実験の協力企業をさらに募り、温度ロガーの利便性を訴求することで、本格運用につながるとしている。